

「躓き（つまずき）を取り去る」 ～偽りでは躓く～

ルカ 17：1～10

あなたはよく躓くほうでしょうか。「山に躓かずして埴（ありづか）に躓く」このことに私たちは気をつけなくてはいいませんが、もっとよくないのが人を躓かせることです。私たちが人を躓かせてしまうとき、ほとんど意識せずに躓かせているのです。（ルカ17：1～10）神の福音は聖霊の力によって伝えられます。あなたの周りには神の愛が届いていますか。だから私たちに聖霊が必要です。ラビたちは3回まで赦せれば立派な人だと言われていましたが、ここではイエス・キリストに「7回」と言われラビたちは「信仰を増してください」と言いました。つまり彼らは無理だと言ったのです。そして躓きを与えると言う行為は愛さない行為であり許さない行為であり受け入れない、自らの行動を神に従わせない行為だと言っています。神の命令は「自分を愛するごとく隣人を愛する」ということです。この命令に従わないものは躓きを与えるのです。この時、ラビたちは神を見ず、自分を見たのです。彼らにとって人をそんなにゆるすことは出来ないとなったのです。そうすると躓きを与えます。自然にある大地や木、虫などは互いに仕えることをし合わなければ生きていきませんが誰も「してやった」とは思っていない。しかし人間は「自分のおかげ」が大好きです。人間だけがこの地球を自分のものだと思っているのです。自然のものたちは自分の生き方（神の設計）に従っているだけです。しかし人は神に従うように創られましたが、意志を持って生きています。この「人の意志」と「命令」の差で躓きは起こりますが、私たちはその躓きを与えるものであってはいけない、自分の意志ではなく神の意志に従って歩むものとなったということなのです。イエス・キリストが悪いものでないことを知っています。しかし「7度赦せ」と言われてもできないだからその力を下さいといったのです。しかし「できる」「できない」ではありません。イエス様も十字架に架かることは「できない」がただ命令に従っただけです。あなたはイエス様を見ているのではなく、あなたを見ているのです。らい病人10人のうちイエス様のところに戻ってきたのは一人だけでした。その一人はイエス様を見たのです。旧約の時代の教えは罪の中にあつたものの中で従つたものだけが救われるというものでした。新約になって、あらかじめ全ての人が救われるようにイエス様が十字架に架かってくれましたがそれに気付いた人が救われるとなったのです。だからできるかできないかではなく、聖書では絶えず「従うか従わないか」になったのです。救いのプロセスではなくするかしないかのプロセスなのです。弟子たちがついていったのはあくまで自分のためだったし、従っていたのではないのです。本当の気持ちで神様に従うと言つた人が自分の意志で従うかどうかを神様は見ているのです。「あなたがたもそのとおりです。自分に言いつけられたことをみな、してしまつたら、『私たちは役に立たないしもべです。なすべきことをしただけです。』と言いなさい。」（ルカ17：10）もし従う意志でやるのではなく、自分を見てやつたのであれば手柄は自分にあるのです。「ここまでやってやった」・・・「自分」「自分」となると「自ら」で終わるのです。自分を見るのをやめなくてはいいけません。ここに出てくる弟子はあなたです。これなら神様に願つて、もらつてもやりません。使うことを初めから願っていないからです。私たちは目線がずれているのです。らい病人10人のうちイエス様のところに戻ってきた、その一人になったあなたは自分を見てはいけません。「17:6 しかし主は言われた。「もしあなたがたに、からし種ほどの信仰があつたなら、この桑の木に、『根こそぎ海の中に植われ。』」と言へば、言いつけどおりになるのです。」（ルカ17：6）できないと思う心も神を信じればできると言っているのです。私たちはできるかできないかではなく、やるかやらないかなのです。できるできないを言っているうちはできないし、やらないのです。あなたがやれるかどうか悩んでいるだけなら、もがくだけで何も変わりません。「だったらこうしたなさい」と神様は言っています。神様がやれと言っているのだからうまくいくのです。でも私たちはしないし、「こうしたほうが・・・」と自分の方法をしてしまうのです。やるかやらないかと言っているうちは偽者です。やって初めて本物です。あなたがやらなくてはならないことをしなかつたらあなたが傷つくのではなくあなたと共にしている人が傷つくのです。神の前に仕えるものとなればできるのです。本物になれば実を結べます。本物が大事です。実を結ぶために①できるかできないか→従うか従わないか。私たちの口に出来るかできないかはいいけません。神様はやり方をおしえてくれています。やり方がわかれば絶対にできるのです。手本はイエス・キリストです。②自分を信じるか、キリストを信じるか。自分を信じていれば、自分の能力を超えたことは信じられないのでできません。それで終わりです。しかし神様を信じればできるのです。弟子は師を越えることはできないのです。③無関心か愛するか。従つたと決めた人は自分を信じてくれた神を信じ、その神の愛した人を愛するか愛さないかです。神様を信じた人をあなたは愛さないのですか。「あなたなら伝えてくれる」と神様はあなたを信じています。信じてくれている人があなたを信じてくれているのですからやめないでください。④赦すか憎しむか。自分を信じてやつた人は「自分がやってやった」と言います。しかし神を信じた人は、その人を愛し赦し自らの誇りとせず、結果「当たり前のことをしたまでです」となるのです。愛したのならその人を何度でもゆるさなくてはいいけません。（コダ1：17～）分裂を食い止めていますか。「はいはい、いいえはいいいえと言いなさい」自分を偽ってはいけません。今日から愛を持ってあなたが創造された本物の姿になっていきましょう。（要約者：岩崎祥誉）